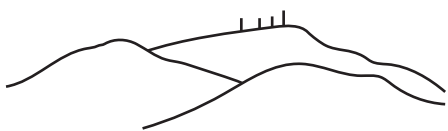


# Youth Manna

2020/11/30 - 12/6



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2020/11/30(月)

## エレミヤ 52:17-34

エレミヤ書の最後の章は、エルサレム崩壊後に起こったことが記されています。主の宮の器物は運ばれ、指導者たちは殺され、主の民はバビロンに連行され、...。どこを見ても絶望的な状況だね。だけど、先に捕え移されていたエホヤキン王は理由なき厚遇を受け、王の前で食事をするようになったという不思議な記述がある。こうしてダビデの血筋は絶やさず、イエス様への系図は繋がれていくよ！（マタイ 1:12のエコンヤはエホヤキン王の別名だよ！）

人の目には希望が映らなくても、神様の目にはそうではない。今置かれている自分の状況をあなたはどのように見ているかな？最悪だと思うようなことがあっても、置かれている所で、神様に目を上げよう！今も天でみこころがなされているように、地でもなされるよう信じて祈ろう！

2020/12/1(火)

## 詩篇 85 篇

今日の箇所は、主の民がバビロン捕囚から解放されて、カナン之地に戻された後の歌と言われているよ。

1-3 節では解放された喜びを歌い、続く箇所では国の再建に伴う困難の中から助けを求めて祈っている。一度国を失った民が、70 年の捕囚期間を経て奇跡的な解放を経験し、大きな期待を持って帰還した。人々は新たな生活を始めたけれど、立て直しには大きな困難があったんだ。8 節にあるように、彼らは困難の中で、ただ神様の声を聞きたいと願ったんだね。

僕らも、問題や困難にぶつかった時、その問題ばかりを見るのではなく、「あなたはどうかお考えですか。私はどう動けば良いですか」と神様に顔を向けて祈ろう！僕らにとって本当に良いお方、恵みに満ちた方である神様を大胆に求めて祈っていきましょう！

2020/12/2(水)

## 詩篇 86 篇

詩篇の著者は苦しみの中から主に叫んでいる (14)。そのような状況で彼は、状況に振り回されないようにと願っている。そのために主の助けを求めるとともに、自分はどのように振る舞えば良いのかを知りたいと願う。それが 11 節の祈りである。「私の心をついにしてください」とは「御名を恐れる」ことに集中できるようにということだろう。恐れや痛みを神以外に向けて解消しようとするのではなく、ただ心を神に向けることができるようにと祈る。また、15 節の祈りには神への感謝が溢れている。神を前にしない高ぶる者 (14) には神のあわれみが分からず、神への感謝もなく滅びに向かう。

恐れや痛みがあるような苦しい状況においても、ただ神様に向かうことができるように祈ろう！

2020/12/3(木)

## 詩篇 87 篇

神様はイスラエルをご自身の民として選ばれた。しかしそれは、彼らが特別というのではなく、彼らを通して主の救いが世界の全ての人々に提供されるためだった。4 節に名があがっているラハブ、バビロン、ペリシテ、ツロ、クシュは当時のイスラエルを取り巻く諸国であり、6 説「この者は この都で生まれた」と言われるようになり、神の民の一員として登録されることになる。

私たちも神様に選ばれて救われた。それをただ自分だけのものにするのではなく、他の人に救いを伝える者として歩む必要がある。

そして謙虚、寛容、親切などに生きる信仰者として歩もう！！

2020/12/4(金)

## ホセア 1 章

▶預言者ホセアが活動した場所は北イスラエル (ダビデの血筋ではない王朝) だ。時代としては、北イスラエルがアッシリア捕囚にあう約 30 年前の話になる。ホセアは、姦淫の女と姦淫の子どもを引き取るという結婚生活を主に命じられた (2)。

▶子どもの名前である「イズレエル」とは、以前エフーがイゼベルを殺害した場所であり流血の谷 (2 列王記 9-10 章) と呼ばれている。また、「ロ・アンミ」とは「わたしの民ではない」という意味だ。

▶しかし 10, 11 節では回復の預言が示される。民は「生ける神の子ら」と呼ばれ、流血の地にも希望がもたらされる。何度も裏切る民をなお愛そうとされる神様の痛みを、ホセアは姦淫の女と姦淫の子らを家族として愛そうとする中で教えられた。

ホセアが神様から教えられたことを思い巡らしながら、今神様が自分に教えられていることは何かを祈りつつ考えてみよう！

2020/12/5(土)

## ホセア 2 章

今日の箇所前半では、ホセアを裏切って他の男の人についていく奥さんの姿と、偶像のバアル礼拝に向かうイスラエルの人々の姿が重ねて書かれている。目に見えるだけの楽しさや豊かさを求めてしまっているんだね。でも、そこに使う物さえも、もともとは神様が与えてくださったもの。そして、裏切られても神様は、私たち人を愛してあわれんでくださっている。

私たちがもっているものは全て神様から与えられているもの、決して当たり前のものではないことを覚えよう！私たちはそれを神様のために使っているかな？神様のあわれみを受け取っているかな？

2020/12/6(日)

## ヘブル 1:1-4

ヘブル人への手紙が書かれたのは、教会が誕生してしばらく経ってからでした。この手紙の受信者たちである教会は二つの嵐の中にありました。嵐の一つは迫害、もう一つは異なった教えでした。そんな時に手紙の作者は、イエス様が何をされたのかを凝縮して書いています。万物の相続者、世界の創造者、神の栄光の輝きであり神の本質の完全な現れ、万物の保持者、贖罪者、そしてとりなし手です。

今あなたは、ここに記されているイエス様の何に、目を留める必要がありますか？  
祈り：人としておいでになった神、私たちの主イエスさま、あなたのお姿を仰ぎます。あなたのことばに耳を傾けます。